

支え合い



一宮市立瀬部小学校六年

山尾

喜一

ある日、お父さんが帰って来たとき会社の名札にオレンジのリングがついていました。ぼくは不思議に思い、お父さんに聞いてみたら、

「認知症サポーターのオレンジリングだよ。」
といました。

ぼくは認知症というものが気になりお父さんに聞いてみました。認知症とは、年をとったお年寄りがいろいろな原因で脳の細胞が死んでしまったり働きが悪くなったりすることで物忘れや、いつもできていたことができなくなる病気だと聞きました。ぼくのお父さんは仕事で認知症サポーターの講習を受けました。認知症サポーターとは、認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を温かく見守る応援者です。今ではお父さんも認知症サポーターの一人です。

ぼくには七十才の一人で住んでいるおばあちゃんがあります。今はまだ元気でいろいろな所に散歩にいたり、遠くのスーパーへ買い物にいたりしています。でも、もしもおばあちゃんが認知症になってしまったらとても心配です。おばあちゃんはいつも夕飯を作ってくれたり、旅行に連れていってくれたりします。でもこの前ストレッチの途中でおばあちゃんがひざを痛めてしまいました。だからおばあちゃんが日課にしている朝晩の散歩ができなくなってしまいました。ボラン

ティアの見守り隊もできなくなっていました。散歩に行けないと家の中にいる時間が長くなり人と接することが少なくなり、認知症につながるような気がします。

一宮市では十人以上のグループに対し、「認知症サポーター養成講座」を開催しています。講座を受講していただいた方には、認知症サポーターとして「認知症の方を応援します。」という意思を示す目印の「オレンジリング」を渡しています。平成二十八年三月までに一万六千五百八十五の方が受講しています。これからの社会はお年寄りの割合が多くなるので人と人との支え合いが大切だと思います。

戦後七十年を過ぎたいま、たくさんの方が高齢者となり（団塊の世代）、二十五年には三人に一人が六十五才以上、五人に一人が七十五才以上という「超高齢者社会」になることが予想されているということを本で読みました。そのために医療・介護・住まい・生活支援などを、地域が一体となって「地域包括ケアシステム」づくりがすすめられています。ほくも赤ちゃんだったころ、保育所や幼稚園の先生だけでなく、児童館や子育て支援センターなど地域の公的なサービスや人びとに支えられながら育ちました。障害のある人たちも社会に支えられて生きてきました。同じようにお年寄りも社会みんなで支えていく人たちです。

自分のおじいちゃん、おばあちゃんを大切にするのはもちろんですが地域に住むお年寄りのためにも支え合いの心が大切だと思います。ほくのお父さんとお母さんは今年四十四才。今とても健康で休みの日にはほくの大好きな野球を手伝ってくれたり、お母さんはご飯をつくってくれたりします。あと三十年たったらお父さんとお母さんは七十四才、ほくは四十二才です。そのときは、お父さんとお母さんは、

病気もなく元気だろうか、ほくはどんな仕事をしているだろうか、結婚はしているだろうか、子どもはいるだろうか、その時はどのような社会になっているのだろうか。

今はほくがお父さんやお母さん、おばあちゃん、地域の人たちに支えてもらっていますがほくが大人になったら今度はほくがお父さん、お母さん、おばあちゃん、地域の人たちを支えたいと思います。そのためにたくさん勉強や運動をして、自分にできることをしっかりとやっていきます。そして、人と人が支え合う社会になるようにしていきたいと思います。

